

町ぐるみの計画的な鳥獣被害対策



目次

1	色麻町の概要	1
2	主な目撃や被害がある鳥獣の種類	2
3	鳥獣被害対策の取組み	5
	取組み以前（～平成27年度）	5
	転換期①（平成28年度～平成30年度）	8
	転換期②（令和元年度～）	20
4	みえた課題や今後の取組み	65

1 色麻町の概要

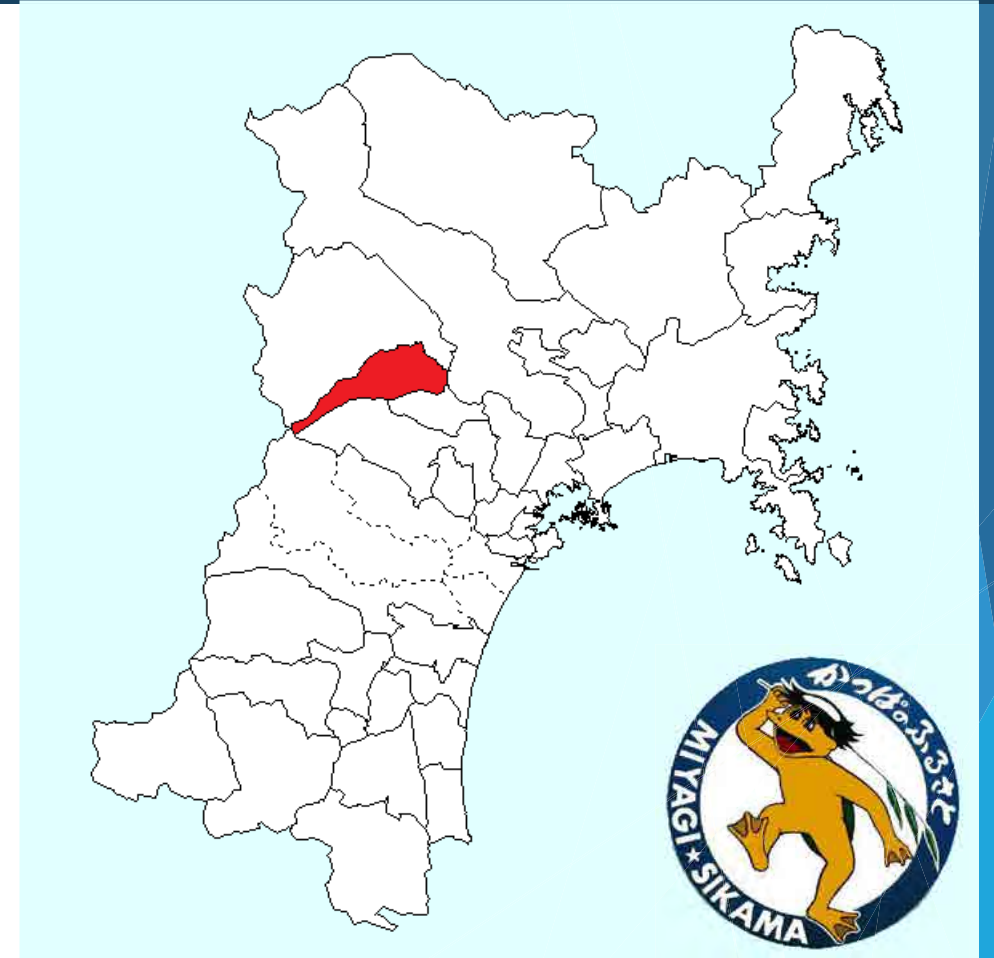
宮城県の北西部に位置し、雨量・積雪共に多い気候。

基幹産業は農業であり、主要作目は水稻や畜産。

世界農業遺産「大崎耕土」に認定されている地域。

人口：6,516人
(令和4年1月末)

面積：109.28km²



2 主な目撃や被害がある鳥獣の種類

ツキノワグマ ⇨ デントコーン、果樹等

イノシシ ⇨ 水稲、豆類、稲WCS、いも類等

タヌキ

ハクビシン

カラス・カルガモ

ニホンザル（目撃のみ）

ニホンジカ（目撃のみ）

ニホンカモシカ（目撃のみ）

色麻町とツキノワグマの歴史

昔から山中に生息し、狩猟も行われてきた。

近年では、人里への出没が増えており、農作物等の被害が発生している。



色麻町とイノシシの歴史

町内に“猪”が
付く地名もある

明治時代に、相当数生息していた

明治 1 1 年当時、色麻村費に「猪鹿防除費」が計上されていた。



昭和時代に、姿を消した

昭和 5 4 年当時、「すでに姿を消した動物」とされていた。



平成時代に、生息域が拡大（回復）した

平成 1 9 年頃から目撃情報があり，平成 2 4 年から
平沢行政区を中心に農作物被害の報告がある。

3 鳥獣被害対策の取組み

年度	町の取組み	協議会の取組み
～平成27年度	・とにかく捕獲していた。 ⇒イノシシを1頭も捕獲することができない。	・平成27年6月5日に有害鳥獣対策協議会を設立した。
平成28年度	・県の集落ぐるみの鳥獣被害対策モデル事業に指定された。 ⇒イノシシの生態や対策等、地域ぐるみで取り組む必要性を学んだ。 ・平成28年7月1日に鳥獣被害対策実施隊を設立した。	・鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した。 ⇒くくりわな、箱わなを購入した。 ⇒電気柵、ワイヤーメッシュ柵を購入した。
平成29年度	・モデル事業の取組みを他行政区に広げた。 ・狩猟免許取得等助成金の新設をした。	・鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した。 ⇒センサーカメラを購入した。 ⇒電気柵、ワイヤーメッシュ柵を購入した。
平成30年度	・モデル事業の取組みを他行政区に広げるが、個別に対策を講じており、対策をしていない地域に被害が拡大した。	・鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した。 ⇒電気柵、ワイヤーメッシュ柵を購入した。
令和元年度	・鳥獣被害対策アドバイザーの活用をした。 ⇒町の現状把握や地域住民と検討を重ね、構想図(案)を策定した。	・鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した。 ⇒電気柵、ワイヤーメッシュ柵を購入した。
令和2年度	・鳥獣被害対策アドバイザーの活用をした。	・鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した。 ⇒約41kmにわたるワイヤーメッシュ柵を購入した。
令和3年度	・鳥獣被害対策アドバイザーの活用をしている。 ・狩猟免許取得等助成金の拡充をしている。 ⇒猟銃や保管庫の購入経費も助成の対象とした。	・鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した。 ⇒電気柵、ワイヤーメッシュ柵を購入した。

転換期①

転換期②

平成27年度までの対策は・・・

◆地域住民

思いついたことは試しているが、効果があらわれない。
どうしようもないから町が何とかしてくれ！



点滅ライト＋有刺鉄線



爆音器の隣にイノシシが・・・

平成27年度までの対策は・・・

◆町

被害報告を受けて現場確認をするものの、何による被害が分からなかった！

◆有害鳥獣捕獲隊（駆除隊）

被害にあった農地や見回りをしやすいところに箱わなを設置！⇒しかし、1頭も捕獲できず・・・

このままだと何もできない！
平成28年度から
対策を学ばなければ！

とにかく
捕獲



平成28年度集落ぐるみの鳥獣被害対策モデル事業

宮城県のモデル事業に指定された平沢行政区が、イノシシの生態や対策等、地域ぐるみで取組む必要性を学ぶ。



モデル事業の活動状況

平成28年

4月20日：モデル地区の決定

5月10日：モデル事業事前打合せ

内容説明及び日程等、実施体制について

5月26日：平沢行政区役員会

内容説明、被害防止マップ作成、第1回勉強会について

6月10日：第1回勉強会

イノシシの特性と被害防止対策、マップ作成の要点について

6月23日：平沢行政区役員・耕作者打合せ

ワイヤーメッシュ柵と電気柵の長所・短所について

6月30日：平沢行政区役員・耕作者打合せ

侵入防止柵の設置範囲について

3 鳥獣被害対策の取組み

7月31日：第2回勉強会

電気柵の設置、ワイヤーメッシュ柵の設置方法について

8月11日：平沢行政区によるワイヤーメッシュ柵の設置

～10月頃：設置に伴う点検及び電気柵コードの回収

10月27日：第3回勉強会

わな免許の取得方法、箱わなの設置・捕獲の要点、
くくりわなの設置・捕獲の要点について

12月11日：第4回勉強会

平沢行政区での活動状況、設置状況やアンケート結果、
被害防止に向けた改善点、今後の活動方向や運営について

平成29年

10月18日：フォローアップ勉強会

被害防止対策及び侵入防止柵の維持管理等について

3 鳥獣被害対策の取組み

正しい対策知識を
身につけましょう！



* イノシシの生態や対策を勉強

* 点検結果を地図に貼り出す



どこに設置する
かなあ～

第1回勉強会 (6 / 10)

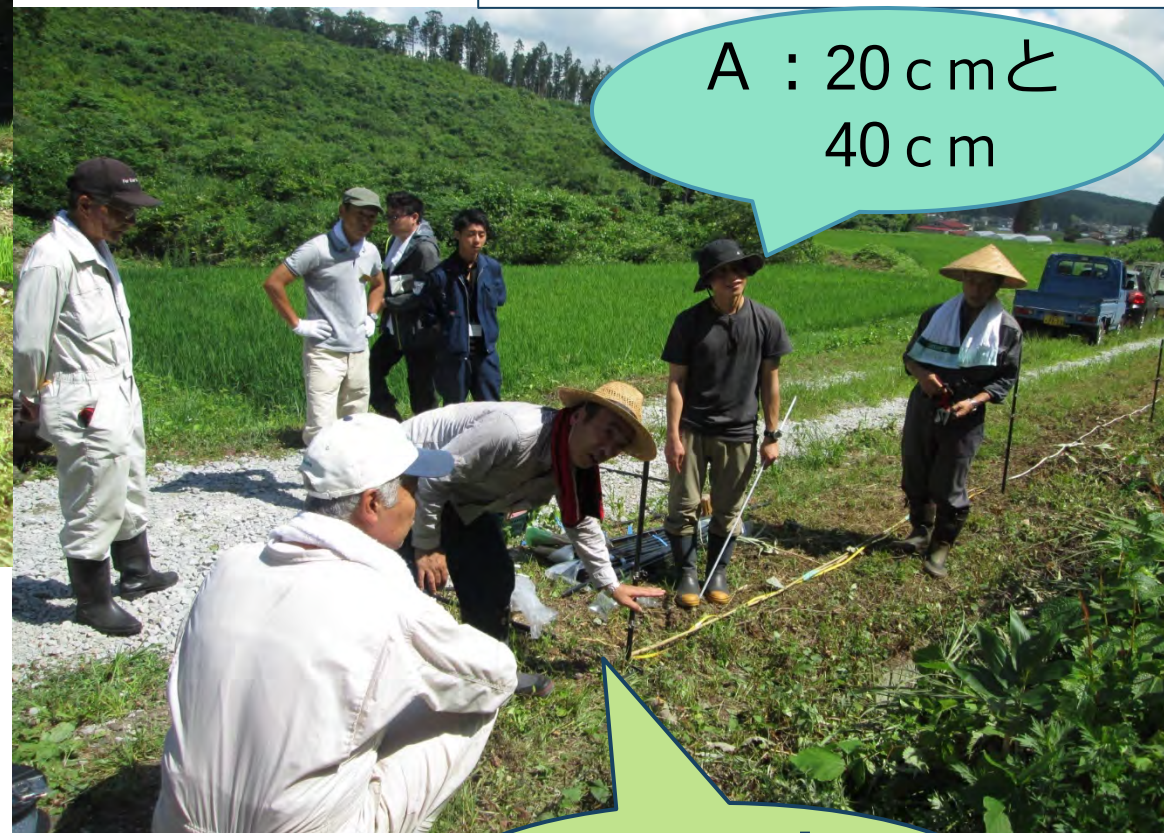
3 鳥獣被害対策の取組み



＊ワイヤーメッシュ柵のリハーサル

第2回勉強会（7／31）

＊電気柵の設置手順を勉強



Q : コードの
高さは？

3 鳥獣被害対策の取組み

みんなで設置すると
楽しいな～



＊地域住民による設置作業

ワイヤーメッシュ柵の設置
(8 / 11)

条件に合わせて
柵を選択！

※宮城県内では初の事例

電気柵

ワイヤー
メッシュ柵



3 鳥獣被害対策の取組み

テレビでも
放映



くくりわなは
イノシシの
通り道に

* 猟友会員によるわなの設置指導

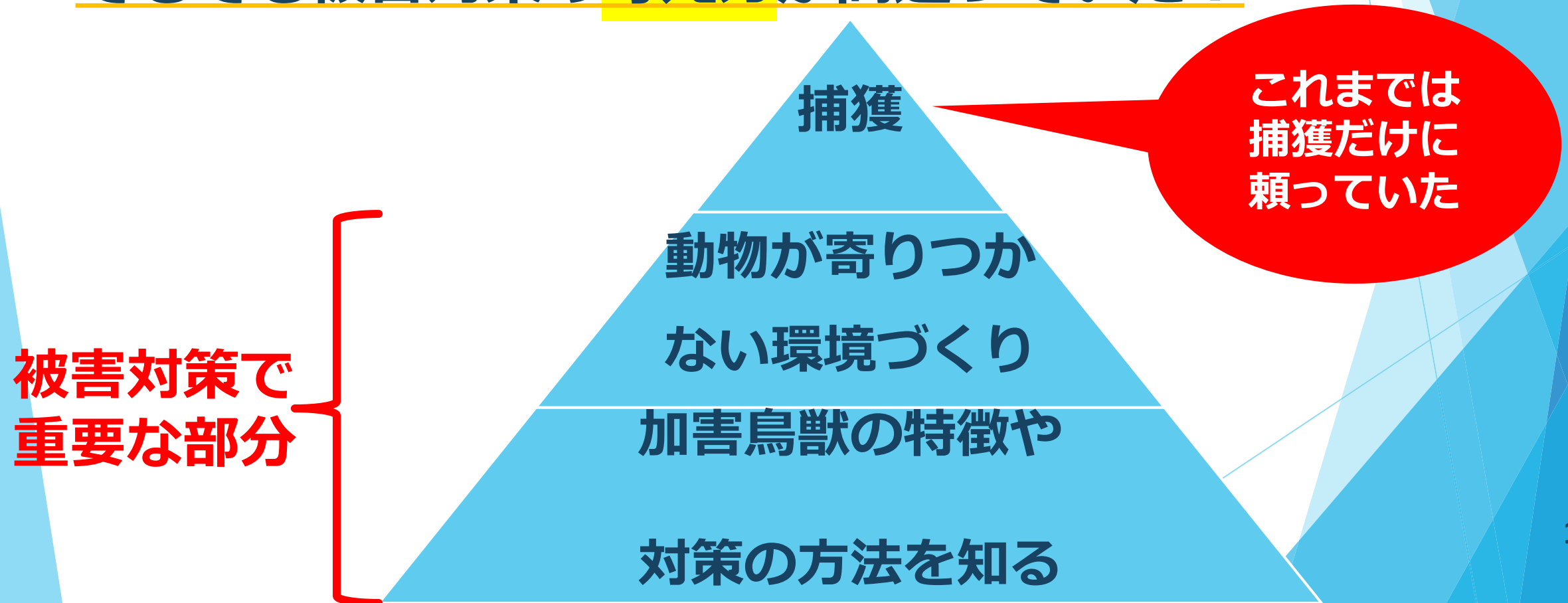
第3回勉強会（10／27）

箱わなには
もみがらを敷く



モデル事業に取り組んだ結果

平成27年度までの対策を振り返ると、
そもそも被害対策の考え方が間違っていた！



モデル事業に取組んだ結果

モデル事業以降、他地域の行政区でも鳥獣被害防止総合対策交付金を活用して、柵を設置するようになった。

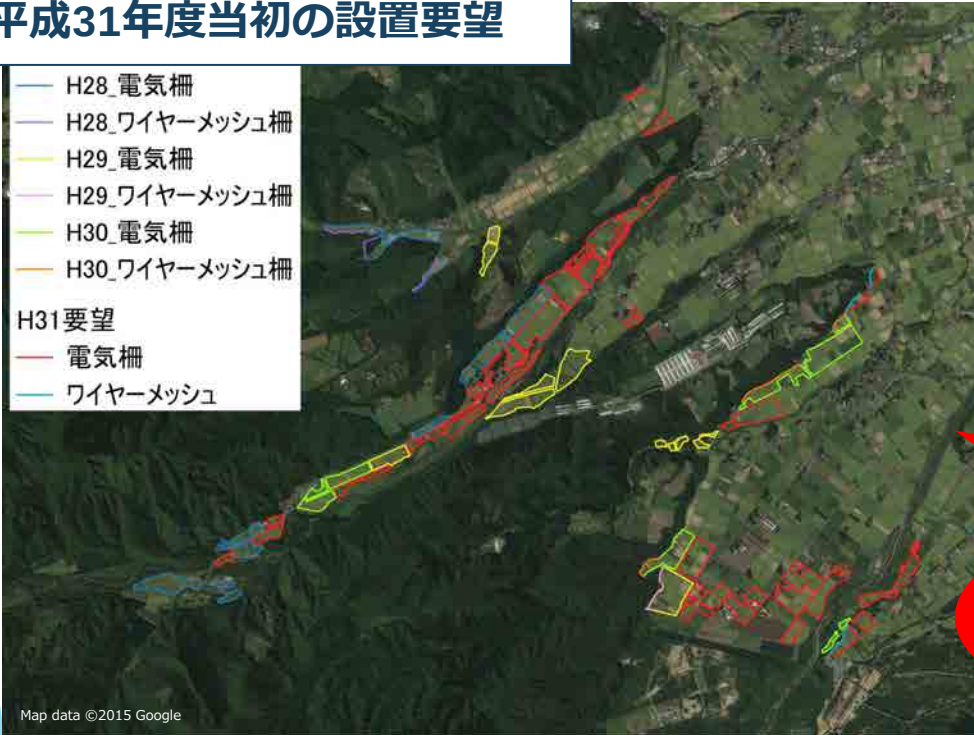


3 鳥獣被害対策の取組み

平成28年度から平成30年度まで、
被害が発生した場所に柵を設置（個別
に対策）してきた。
柵を設置した場所は守られるが・・・

平成30年度までの設置状況と
平成31年度当初の設置要望

— H28_電気柵
— H28_ワイヤーメッシュ柵
— H29_電気柵
— H29_ワイヤーメッシュ柵
— H30_電気柵
— H30_ワイヤーメッシュ柵
H31要望
— 電気柵
— ワイヤーメッシュ



侵入防止柵の整備状況

個別に対策

計画的に対策

	H28	H29	H30	R1	R2	計
ワイヤーメッシュ柵	1,150	600	1,450	7,360	41,150	51,710
電気柵	11,800	9,600	8,500	10,800	-	40,700
合計						92,410

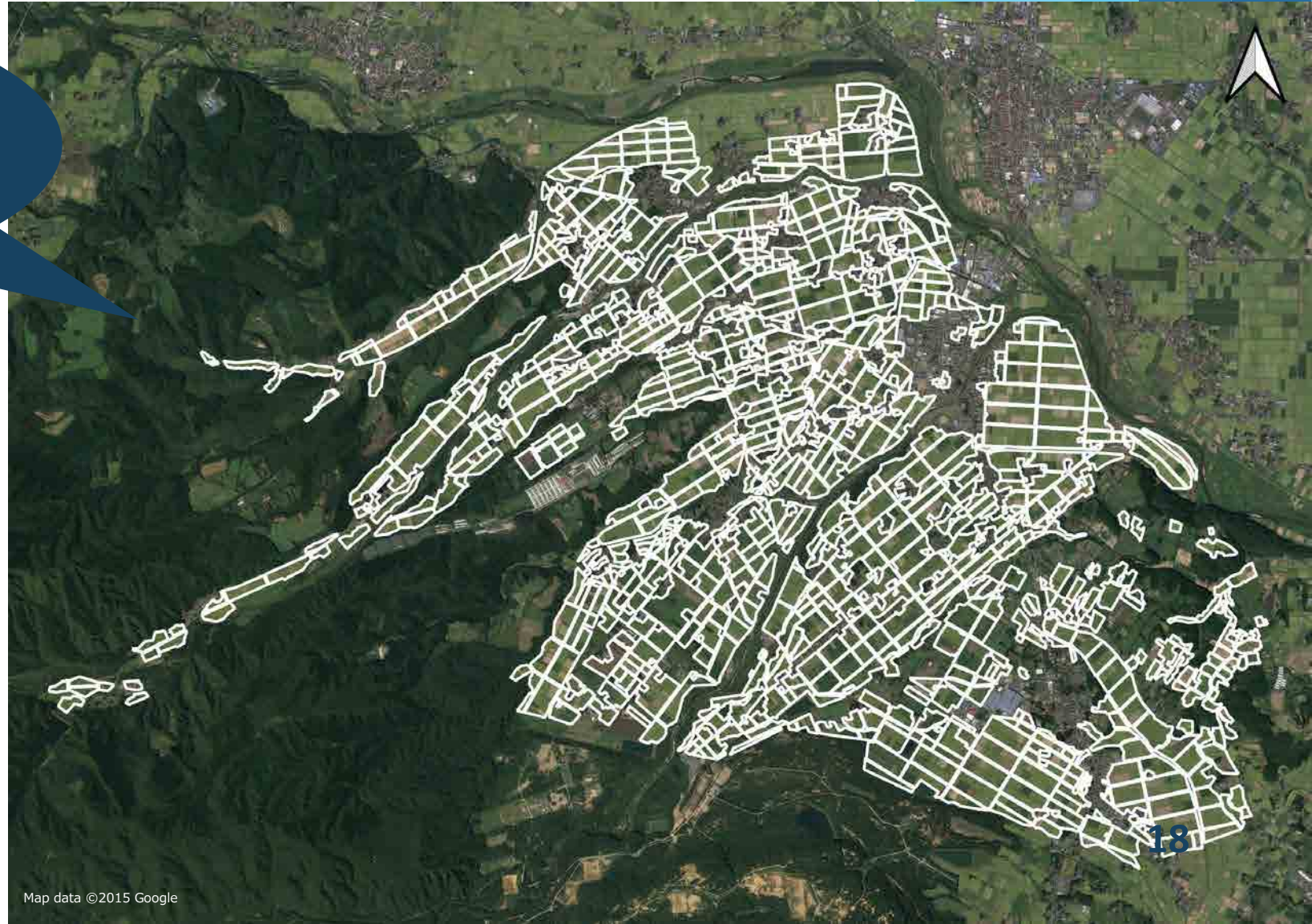
対策をしていない地域に
被害が拡大して収まらない！

このまま「その場しのぎ」の対策をしていたら・・・

総距離 **約 600 km**

(宮城県色麻町から京都府京都市間の直線距離に相当)

いつまで続けるのか・・・
距離が長くなると維持管理
が大変！



目標

被害を減らしたい（なくしたい）

安心して農作物を
作りたい！

何とか
したい！

地域
住民

協議会
（町）

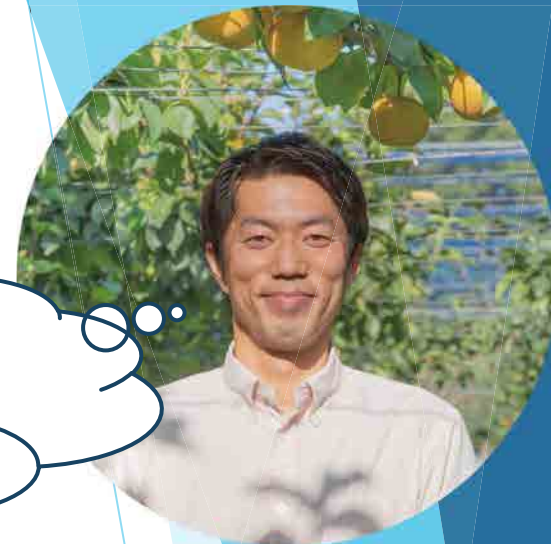
柵を設置しても
被害が減らない

中・長期的な
考えが必要？

専門家に相談してみよう！

鳥獣被害対策アドバイザーの活用

(農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー)



かさなりデザイン合同会社の
鈴木淳です。
一緒に取組みましょう！

活用している理由

- ・このまま個別の対策を続けたらイタチごっこになる。
- ・被害が拡大する前に抜本的な対策を講じたい。
- ・被害対策は「地域に合った対策が必要」と言われるが、具体的にどうしたらいいのかわからない。
- ・地域住民に指導しているが、話を聞いてもらえない。
- ・正しいことをやっているのかわからない。

令和元年度から
三位一体での
取組みがスタート！

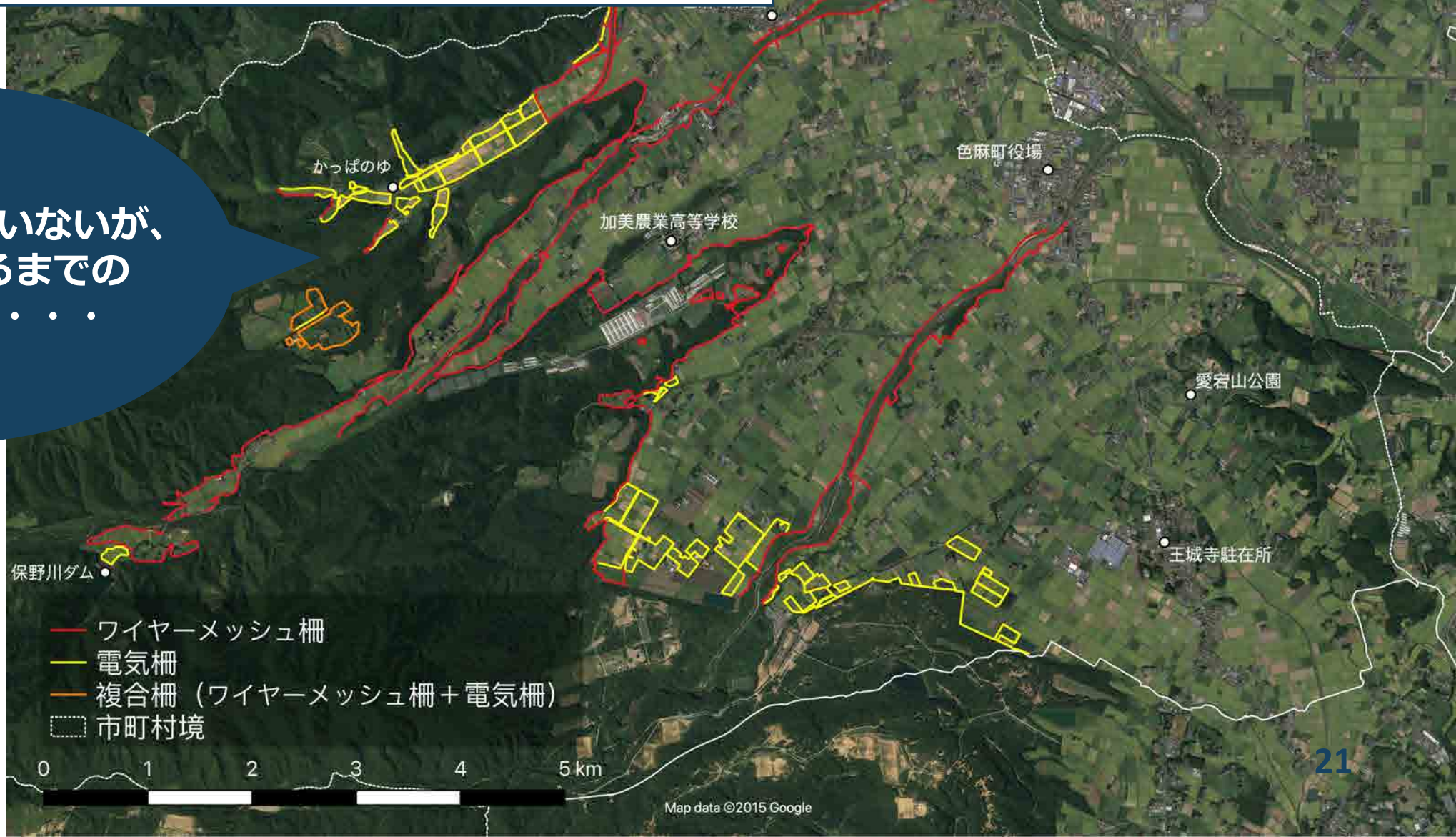
地域
住民

専門家

協議会
(町)

現在（令和3年度）の柵設置状況

対策は終わっていないが、
ここにいたるまでの
みちのりは・・・



町ぐるみ対策のみのり



町の現状把握

対策を検討するために

被害状況、対策方法、捕獲方法、管理体制について調査した。



水田被害



対策の方法



河川の痕跡



捕獲状況

町の現状把握

対策を検討するために

移動経路（河川や用水路など）になる環境や痕跡を調査し、どのように行動しているのかを把握した。



屋敷林



蹄の痕跡



用水路の高さを確認



移動経路をたどる

町の現状把握

現地調査とともに、
町に寄せられている
情報も把握した。

平成30年度出沒マップ



※ ●：イノシシ、●：ツキノワグマ 目撃・被害情報を寄せられたものを表示しております。この他にも出沒している可能性があります。

構想図（案）

現状把握で得られた情報を「見える化」にする

- ・ 鳥獣の利用状況や地域の環境を見える化にすることで、潜み場や誘引元、移動経路などを把握できるようになった。
- ・ 被害が発生した場所をその都度防除するという「その場しのぎの対策」から、広域的に根本的な対策をすべき箇所や重要度が見え、効果的に検討することができるようになった。
- ・ 見える化にすることで、情報を共有できる。

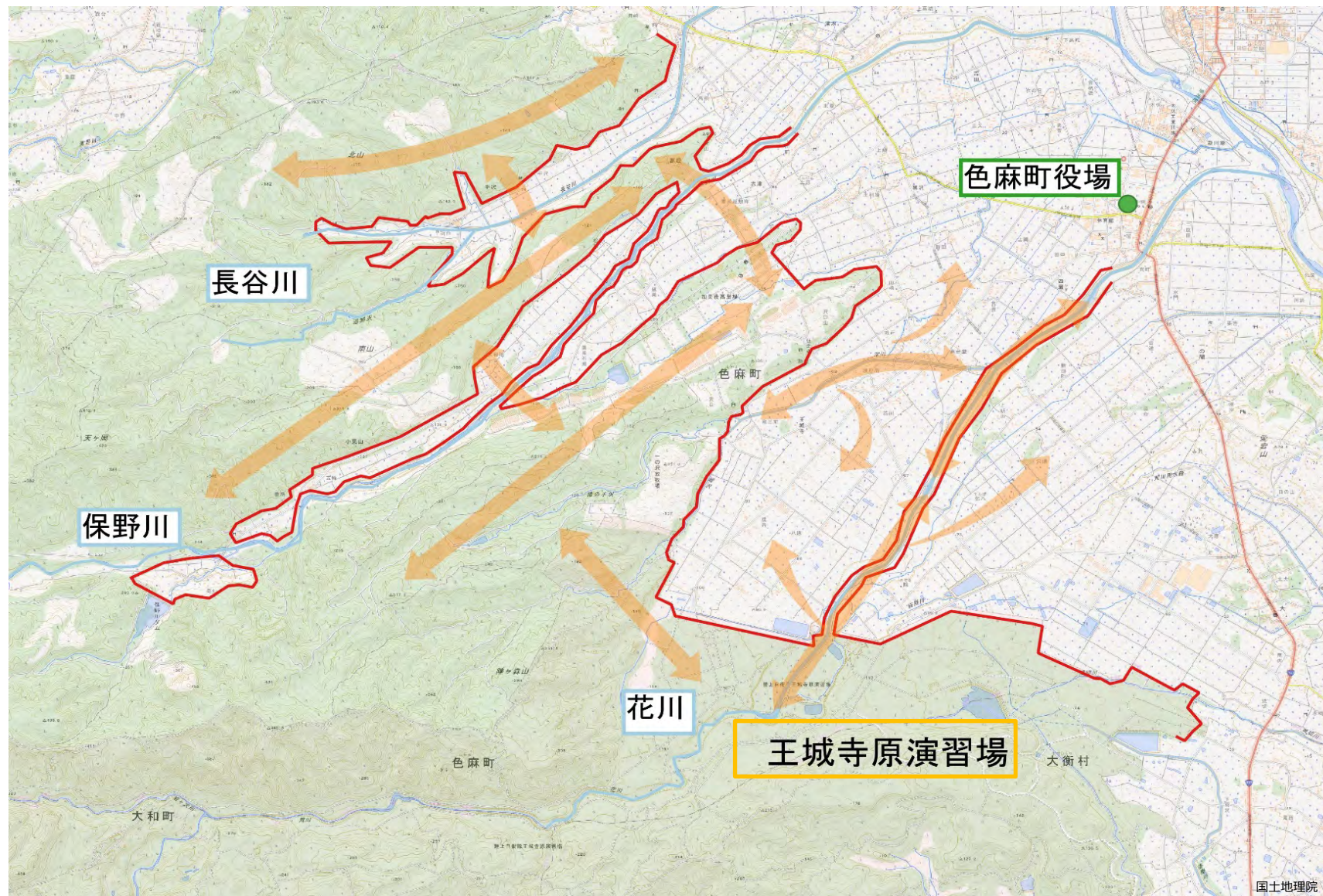
わかったこと

- ・ イノシシやツキノワグマの生息環境と人里がはっきり分かれている。
- ・ 平野部は平坦でまとまっており、屋敷林があるところ以外は、見通しのよい環境となっている。
- ・ 河川が移動経路になっていた（地域住民は、山側を対策すればよいと思っていた）。

“対策は地域住民が主体”

3 鳥獣被害対策の取組み

構想図（案）



→ イノシシの動き

— 防除ライン

※イノシシの生息環境と
地域住民の生活圏の境
※柵の設置場所の案
ではない

地域住民と検討

合意形成

被害が発生していない地域住民は、他人事のように感じている。

時には対策のペースを遅らせたり、話を寝かせることも大切！

被害対策は、**地域全体**の課題であることを認識してもらおう！



地域住民と検討

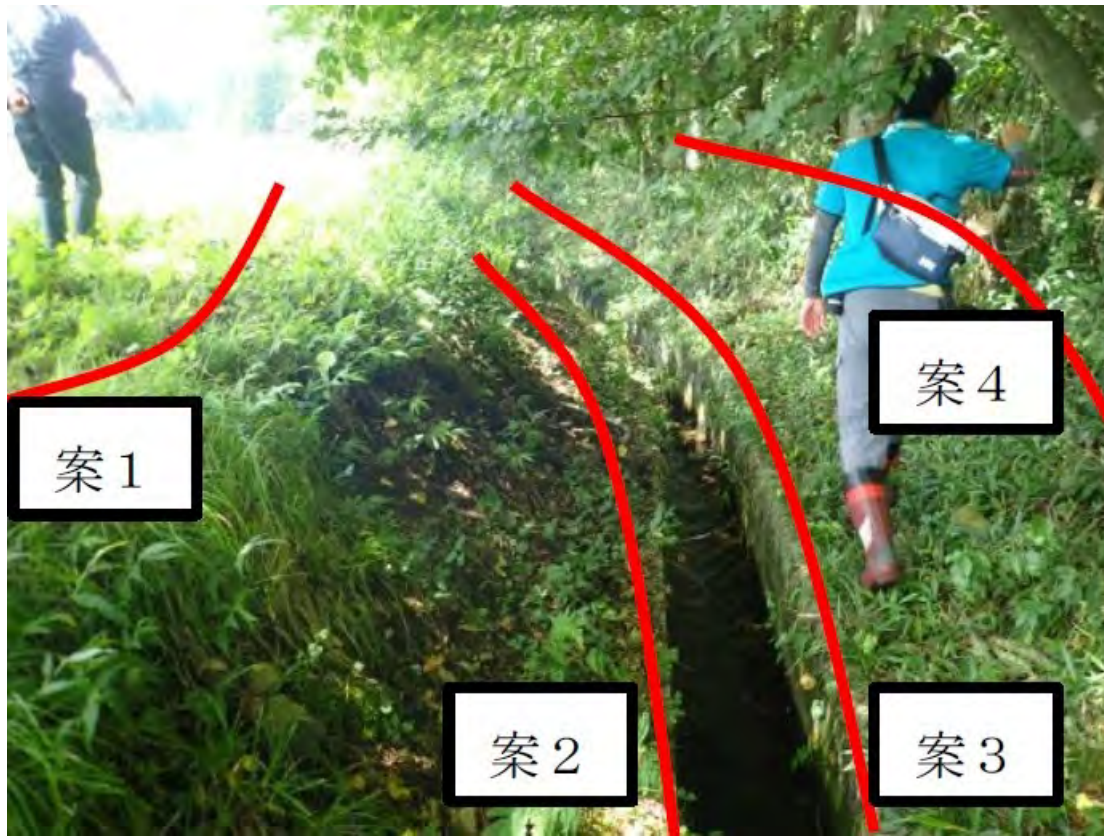
検討内容を何度も図化
(見える化) することで、
合意形成がはかりやすくなる。



被害防除

侵入防止柵設置場所の検討

圃場側、用水路の手前、奥、林内などでの違いを理解したうえで設置した。
日常の農作業や水路管理、山への出入りなどをふまえて地域住民と検討した。



被害防除

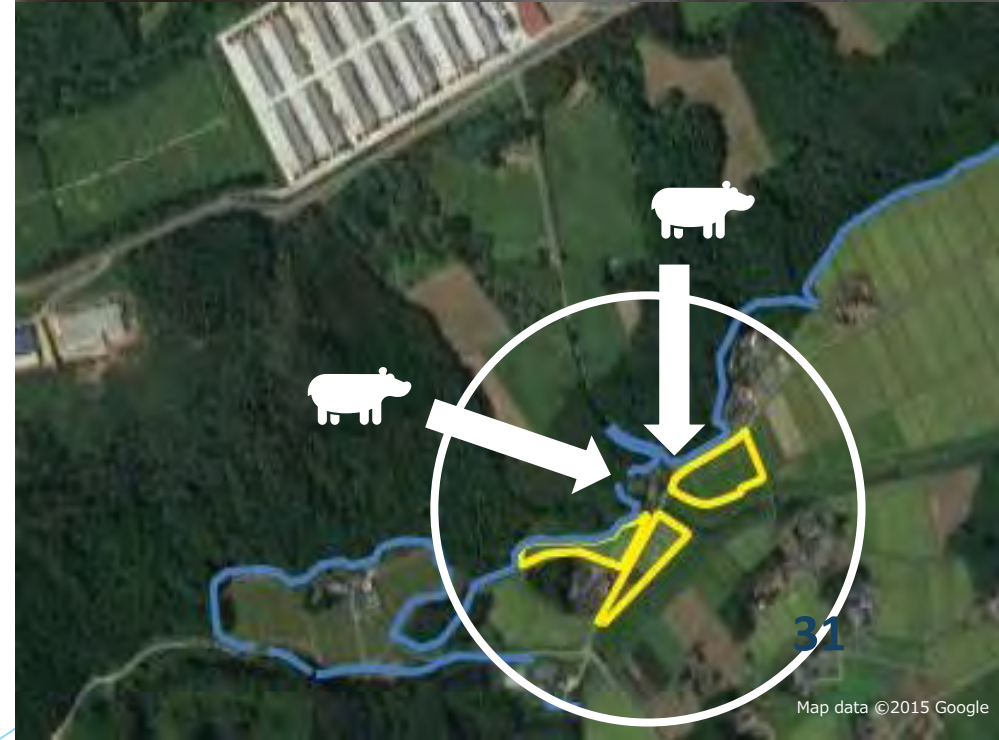
塞ぐことができない場所の対策

■ 道路

- ・ゲートが設置できない道路は、道路の両側を外側に延ばした。
- ・完全に塞いではいないが、侵入しにくい環境を作ることによって、地域住民の生活とのバランスをとることができた。

■ 河川や水路

- ・周辺に電気柵などを設置して、面的に対策を講じた。



被害防除

■ゲート

他地域の事例を参考にしながら工夫して設置した。



大型車両用ゲート（約7m）
単管パイプ、ターンバックルなど



鉄筋で補強



単管パイプゲート



単管バリケード

被害防除

■ゲート

他地域の事例を参考にしながら工夫して設置した。



ワイヤーメッシュ柵を加工



地際の補強



神社の出入り口



ワイヤーメッシュ柵を加工

被害防除

町道ガードパイプへの設置

担当課と協議した結果、ガードパイプにワイヤーメッシュ柵を設置することができ、丈夫なフェンスになった。



被害防除

河川沿いの対策

- ・ 町内には5つの一級河川がある。
- ・ 河川法を遵守しながら、効果的な方法を検討した。

イノシシが移動できない地形環境（河川の垂直な護岸や頑丈なフェンスなど）がある場合は、それを活用することで、省力的で効果的な設置や維持管理が可能になる。



登れない護岸を確認



境界の確認



管理用通路は塞ぐことができない

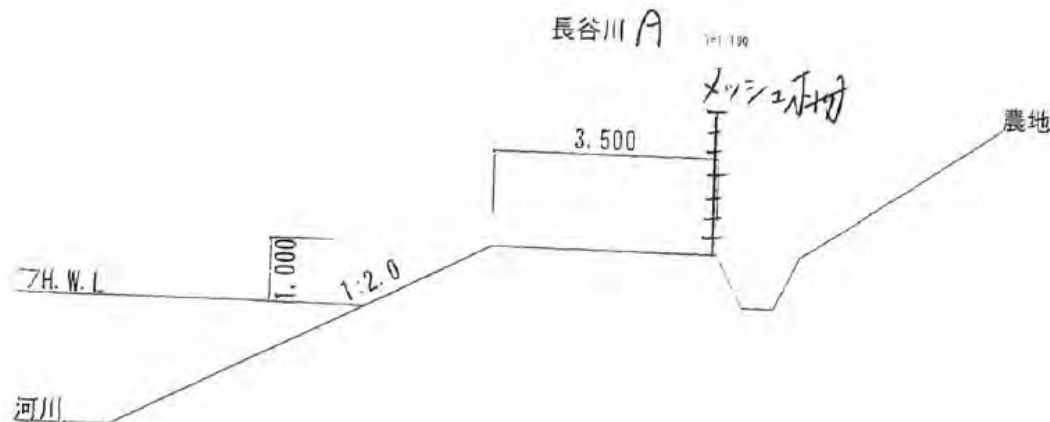
被害防除

許可申請書

- ・河川法（第24・26・55条）に基づく申請が必要である。

⇒許可申請書（柵の資材数量、占用面積、保全区域内の行為面積）、許可が必要な理由、柵の仕様書、ゲートの開閉図、位置図、境界図（堤防、ほりこみ、保全区域、ゲートの設置場所等を図示）、標準横断図、上流から下流にかけての現況写真（等間隔）が必要である。

※柵設置後は、完了届を提出する必要がある。



専門的な知識が必要であり、申請書の作成をするだけで、100時間以上かかった。
※地域住民と調整した時間は含んでいない。



3 鳥獣被害対策の取組み

被害防除

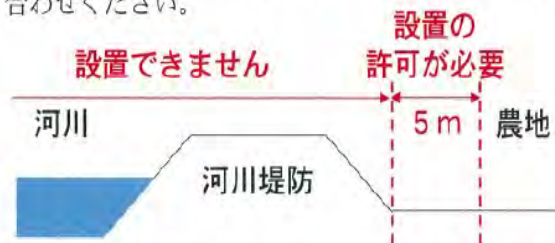
河川付近に電気柵を設置する場合
次のことを守ってください！

① 河川の土地には電気柵を設置できません。

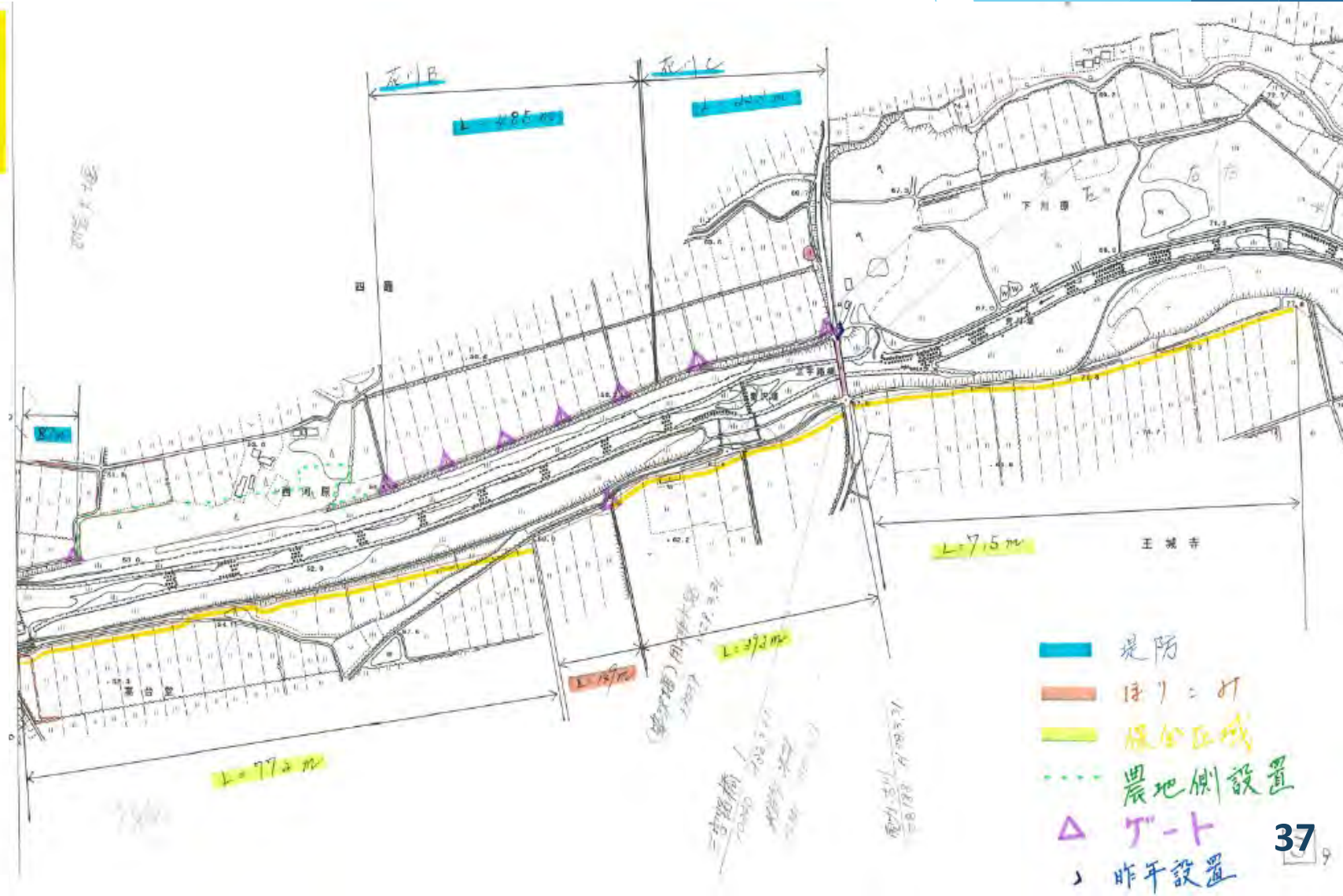
河川堤防や管理用通路は、河川工事や水防活動等に使用するため、電気柵の設置は認められません。

② 河川堤防や管理用通路から5mの範囲内の土地に電気柵を設置する場合、河川管理者の許可が必要です。

設置する場所、規模等によっては許可できない場合があります。河川によっては許可が不要な場合もあるため、詳しくはお問い合わせください。



- ◆許可申請する場合は、設置したい場所の写真（農地や河川が写ったもの数枚）を用意し、事前にお電話いただいた上で来所してください。申請書等に記入していただきます。
- ◆申請から許可までは概ね二週間程度かかります。
- ◆その他、ご不明な点がございましたら下記連絡先までお気軽にお問い合わせください。



被害防除

地域住民の声

- ・ 河川法のハードルが高く、理想とする場所に柵を設置することができない。
- ・ 堤防に柵を設置することができないと言われているが、鉄筋の穴を開けただけで壊れる堤防をつくっているのか。
- ・ 堤防に柵を設置することができれば、堤防もイノシシ被害から守ることができる。



堤防



川表

被害防除

陸上自衛隊王城寺原演習場沿いの対策

- ・ 演習場の境界は防除ラインであり、自衛隊と協力体制を構築し、連携した対策を実施している。
- ・ 令和4年度から自衛隊の敷地に、ワイヤーメッシュ柵の設置を検討している。



イノシシが演習場外に出ないように自衛隊が補修



自衛隊による刈払作業

被害防除

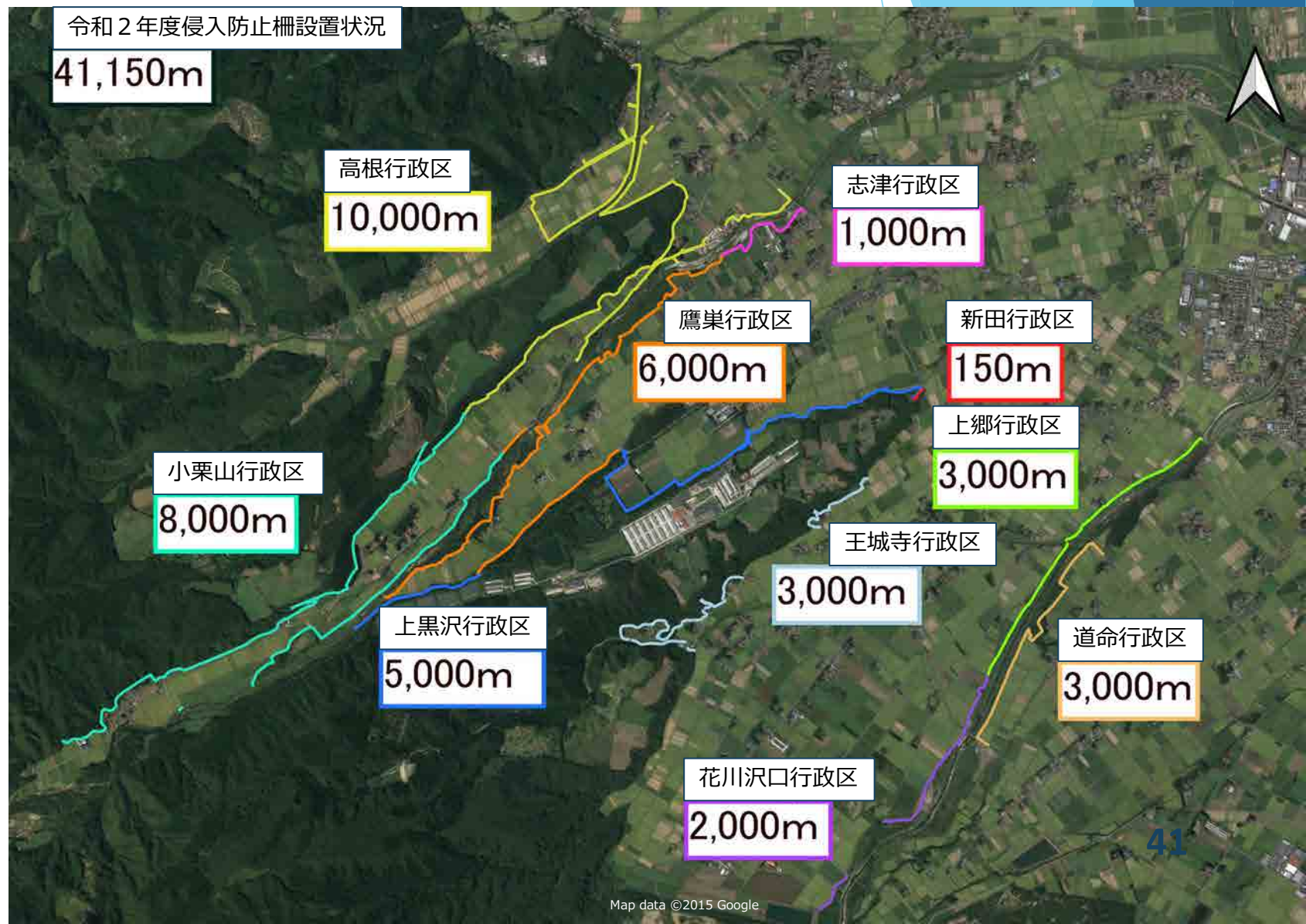
隣接市町村との連携

- ・ 構想図（案）を共有することで、市町村を越えた対策が可能になる。
- ・ 令和4年度に鳥獣被害防止総合対策交付金を活用して、ワイヤーメッシュ柵を導入する予定である。



被害防除

地域住民と検討を重ねた結果、令和2年度に約41kmのワイヤーメッシュ柵を設置することができた。



3 鳥獣被害対策の取組み

環境整備

構想図（案）を共有（見える化）したことで、客観的に対策が必要な場所がわかるようになり、自主的な環境整備が進みやすくなる。



3 鳥獣被害対策の取組み

捕獲

技術

- ・ ツキノワグマや鳥を撃つ銃猟は盛んだった。
- ・ イノシシを捕獲するには、わな（箱わな、囲いわな、くくりわな）の技術が必要であるため、安全面も考慮した研修会を開催した。

場所

- ・ これまでは、被害があった場所にわなを設置することしかできなかったが、構想図（案）をもとに、移動経路などをふまえ、効率的に設置することができるようになった。

体制

- ・ 狩猟免許取得等助成金を創設したことにより、隊員を確保することができるようになった。
5名（平成23年度）⇒18名（令和3年度）
- ・ IOTの実証実験を行った。



狩猟免許取得等助成金

町では、平成29年度から助成制度を新設し、令和3年4月1日から新規第一種銃猟免許取得者に対し、銃猟（保管庫を含む）を購入される方にも支援できるように、助成制度の拡大をしている。

対象者

- ・町内に住所を有している方
- ・町税等を滞納していない方
- ・過去に狩猟免許等の取り消しを受けたことがない方
- ・狩猟免許等の取得後は、鳥獣被害対策実施隊に入隊し、有害鳥獣の捕獲活動に従事することができる方

※更新は、実施隊に入隊している方に限る。

○助成金の額等

種別	区分	助成金額等
わな猟免許	新規取得者	16,000円
	更新者	6,000円
第一種銃猟免許	新規取得者	80,000円
	更新者	18,000円
銃猟(保管庫含む) 購入	新規取得者 (1丁に限る)	該当経費の2分の1以内の額(1,000円未満切捨て)とし、200,000円を限度とする。 例) 500,000円分購入⇒200,000円助成 400,000円分購入⇒200,000円助成 300,000円分購入⇒150,000円助成

IOTの活用 害獣捕獲監視システム「マタギっ娘」

マクセルフロンティア株式会社と連携し、
実証実験を行った。

目的：鳥獣被害対策実施隊（猟友会）の
わな設置に伴う見回りの省力化を
図ることを目的とした。

期間：令和2年10月 7日から
令和2年12月22日まで

実証実験の活動状況



令和2年

- 8月26日：打診がある**
- 8月28日：実施隊の会議で決定**
- 8月31日：スケジュール確認**
- 9月4日：子機設置場所選定**
- 9月25日：基地局等設置場所決定**
- 10月7日：基地局等設置**
- 10月15日：実施隊による子機設置開始**
- 12月22日：基地局等撤去**

3 鳥獣被害対策の取組み

基地局の設置

場所：色麻町役場庁舎屋上

面積：0.5m²

設置：マクセルフロンティア
株式会社



子機の設置

場所：色麻町内全域

設置：実施隊

種類：くくりわな、
箱わな



3 鳥獣被害対策の取組み

実証実験を行った場所



3 鳥獣被害対策の取組み

実施隊（猟友会）の感想

メリット	デメリット	見解 (マクセルフロンティア株式会社)
見回りの省力化に繋がる	冬期間は降雪の影響による誤作動が多い	センサーを追加し、検知精度の向上を図る。
設置方法が簡単 (特殊な工具が必要ない)	子機を中継器にかえられないか	中継器への切替え機能は、故障の原因や製品コストの増加の要因になるため、機能の追加は見送る。なお、子機と同じ大きさの中継器は、販売を開始している。
大規模な工事が伴わない	地図上にNoか地名等を表示させてほしい	わなが隣接している場合、地図が見えにくくなると推測される。メールに任意のデバイス名が記載されるように改善をした。今後は、メールによって位置の特定を行っていただく。
子機が軽量	Cメールでも使えるとよい	2022年～2026年にかけて、各キャリアの3Gサービスが終了となる。代替案として、他の方法での通知を検討している。
無線の申請が不要（使用料不要）	地図上で設置・撤去日が分かるとよい	マタギっ娘サーバの「履歴一覧」から履歴を確認することができる。今後、GIS(地理情報システム)の活用も視野に、改善を進めている。

実証実験の結果

①見回りの省力化に繋がる

実証実験前（135日間）

令和2年 5月25日から

令和2年10月 6日まで

見回り138回×2名=276回

➡ 0. 48日に1回

実証実験後（77日間）

令和2年10月 7日から

令和2年12月22日まで

見回り35回×2名=70回

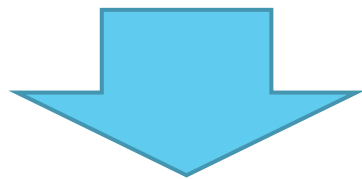
➡ 1. 10日に1回

②害獣捕獲監視システムを使う場所は、奥地や見回りが困難な場所であれば、大いに活躍できる。

③対象鳥獣によって、害獣捕獲監視システムを使い分ける（過信しない）必要がある。ツキノワグマの場合は、特に危険が伴うことから、見回りの省力化は図れない。

④電波状況が安定しない

中継器が必要であるため、設置する場所は、町有地が第1候補とされることから、町内全域を網羅することができない可能性がある。（民有地の場合は、交渉が必要であり、設置すること自体が困難な場合もある。）



わなは、警戒されないよう、藪の中に仕掛けることが多い。実証実験で、中継器を設置したが、子機が作動しない場所が多々あった。

**中継器の設置数を増やす
ことで改善される！**

3 鳥獣被害対策の取組み

地域連携

色麻小学校

- ・ 動物の名前をあてるクイズ
- ・ 有害鳥獣に遭遇したときの対処方法
- ・ 人と動物の共存



クマやイノシシの生態を学んだよ！

9月30日、色麻小学校5年生67名が、総合的な学習の時間（農業）で「有害鳥獣被害」についての知識を深めました。実際に、クマやイノシシが農作物を荒らしている映像や近隣町村に生息している動物の名前をあてるクイズ、人と動物が上手に共存していくことができるのではないかとあったお話や、有害鳥獣に遭遇したときの対処方法についても学んでいました。クマやシカのはく製や頭蓋骨に興味津々な様子の子ども達でした。



▶ 町鳥獣被害対策
アドバイザーの
鈴木さんが講師



広報しかま令和元年 11月号

地域連携

加美農業高等学校

イノシシやツキノワグマによって、果樹やデントコーンの被害に悩まされており、令和2年度からデントコーンの栽培を断念した。



リンゴ被害



デントコーン被害

地域連携

協議会（町）

- ・加美農業高等学校周辺は、農作物が多くイノシシやツキノワグマの出没に大きな影響を与えている。
- ・高校生の力を借りて、地域の人手不足を解消したい。
- ・町の対策としても鍵となる存在！



加美農業高等学校

- ・農作物の被害をなくしたい。
- ・生徒の安全を確保したい。
- ・地域と連携した活動が何かできないか。
- ・学校教育にも良いのではないか。

**令和2年度から
連携した対策を始めた！**

3 鳥獣被害対策の取組み

地域連携

- ・総合学習の時間を活用し、生徒達が被害対策を学ぶ。
- ・協議会（町）や隣接する行政区と連携して、柵の設置場所を決定し、設置活動を行う。



広報しかま令和2年7月号



▲少し苦戦する場面もありましたが、仲間と声をかけあいながら楽しく勉強！



地域課題に加美農業高校生の若い力を！

この日、生徒達は「野生動物問題と対策」と題して、町鳥獣被害対策アドバイザーの鈴木氏から野生動物の生態や、農業被害の実態を動画で見ると、被害対策は地域ぐるみで取り組む必要があるといった内容の講演や実際に獣害対策用具を使い学習をしました。

加美農業高校（農業機械科3年生）ではイノシシやクマなどの獣害対策についての取り組みが学習課題の一環として行われています。

農業高校は
獣害対策も
必須スキル！

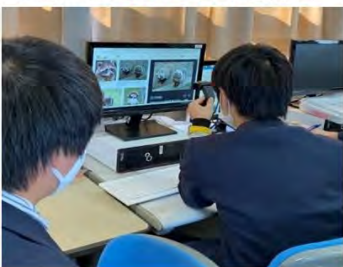
3 鳥獣被害対策の取組み

地域連携

- ・被害状況を調べるため、地域住民に対し、アンケート調査を行う。
- ・IoT機器の製作を行う。
- ・箱わなの製作や協議会の箱わなの修理を行う。
- ・柵の維持管理を行う。

能力測定

画像をランダムで検出させ
完成したAIの正答率を算出



	正答率
イノシシ	65%
クマ	90%
タヌキ	95%
イタチ	70%
ハクビシン	70%
キツネ	75%



IOT機器による錯誤捕獲対策



校内に設置した柵の維持管理

箱わな製作



地域連携

地域住民と環境整備の活動を行う。
今後、さらに活動を広げていく予定！



3 鳥獣被害対策の取組み

令和3年8月27日

全国農業新聞

7 農業委員会 2021年(令和3年)8月27日(金)

全



宮城・色麻町

北上を続け、東北地方でも被害を増やしている猪。宮城県色麻町は、町全体をワイヤメッシュで囲い、防いでいる。被害の発生は2012年ころからだ。同町は16年から、農地周りを中心に電気柵を設置したが、根本的な解決にはつながらなかった。そこで、19年5月に鳥獣被害対策アドバイザーとして鈴木淳さん(かきなりデザイン合同会社)を招聘した。鈴木さんは「猪の行動把握が大切」と、町と協力し、目撃情報や足跡、踏み倒しなどの痕跡から侵入経路などを予測。山側や河川からの侵入が多いことを突き止めた。

町全体を柵で囲い猪被害を防止

合意形成へ粘り強く話し合い



住民とともに、同町の加美農高生の生徒も柵設置などに携わった

入経路などを予測。山側や河川からの侵入が多いことを突き止めた。同町で鳥獣被害対策に携わる産業振興課の阿部剛主査は「調査をもとに町全体を柵で囲うことを考えた。農地単位の設置より柵全体の距離も短く、維持管理もしやすい」と話している。阿部主査は「合意形成に専門的な知見を持つアドバイザーの存在は貴重だった」と感謝する。そうして完成した構想図を基に昨年度、トータル41基にわたるワイヤメッシュ柵を設置。費用は、ほぼ全額を国の鳥獣対策で賄っている」と話す。

みやぎ 総合



令和2年8月22日 河北新報

色麻町、侵入防止柵を設置

イノシシの農作物被害を防ぐため、色麻町は今月、山側側に総延長約41基の侵入防止柵の設置作業を始めた。秋の終わりにワイヤメッシュ柵を張り巡らし、イノシシの侵入を町全体で防ぐことを目指す。

加美農高生「地域貢献」

高校生がワイヤメッシュをつないで防止柵を設置した。渡部さん(17)は「獣害で困っている農家が多い。簡単な作業ではないが、地域のために貢献したい」と汗を流していた。

イノシシ撃退 高校生一役

になる。21日は3年生12人が、教員や町職員とともに設置に取り組んだ。縦1・2基、横2基のワイヤメッシュを針金で連結したり、支柱を立てたりしながら、イノシシが下から侵入できないように柵を作った。

昨年、生徒が育てたサツマイモやデントコーンがイノシシやクマの食害で壊滅的な被害を受けた。同町は2基分の柵の設置を担当するほか、隣接する地区の分の資材運搬を手伝った。3年佐竹



加美農高生も作業に一役

色麻町色麻地区で、総延長約41基の侵入防止柵の設置作業が、21日(金)に色麻町色麻地区で進んだ。色麻町色麻地区の加美農高生も作業に参加した。色麻町色麻地区の加美農高生も作業に参加した。色麻町色麻地区の加美農高生も作業に参加した。

大崎市市民活動サポートセンター指定管理者募集。大崎市は、大崎市タマの交差点を境とする地域に、大崎市市民活動サポートセンター指定管理者を募集している。募集期間は令和2年8月7日まで。



令和2年8月24日 大崎タイムス

総延長41基の柵設置進む

色麻町 イノシシ被害など防止

色麻町色麻地区で、総延長約41基の侵入防止柵の設置作業が、21日(金)に色麻町色麻地区で進んだ。色麻町色麻地区の加美農高生も作業に参加した。色麻町色麻地区の加美農高生も作業に参加した。

構想図（案）の効果（令和3年度検証結果）

- 1 被害報告件数、農作物被害金額が少なくなった
- 2 行動域が制限されたことで、わなが設置しやすくなり、捕獲頭数が増えた。
- 3 侵入された場合でも、柵の破損などから侵入原因を掴みやすくなった。
- 4 ツキノグマがワイヤーメッシュ柵を乗り越えたときに歪曲することで、移動経路がわかるようになった（上部の歪曲のみのためイノシシ対策の効果は変わらない）。

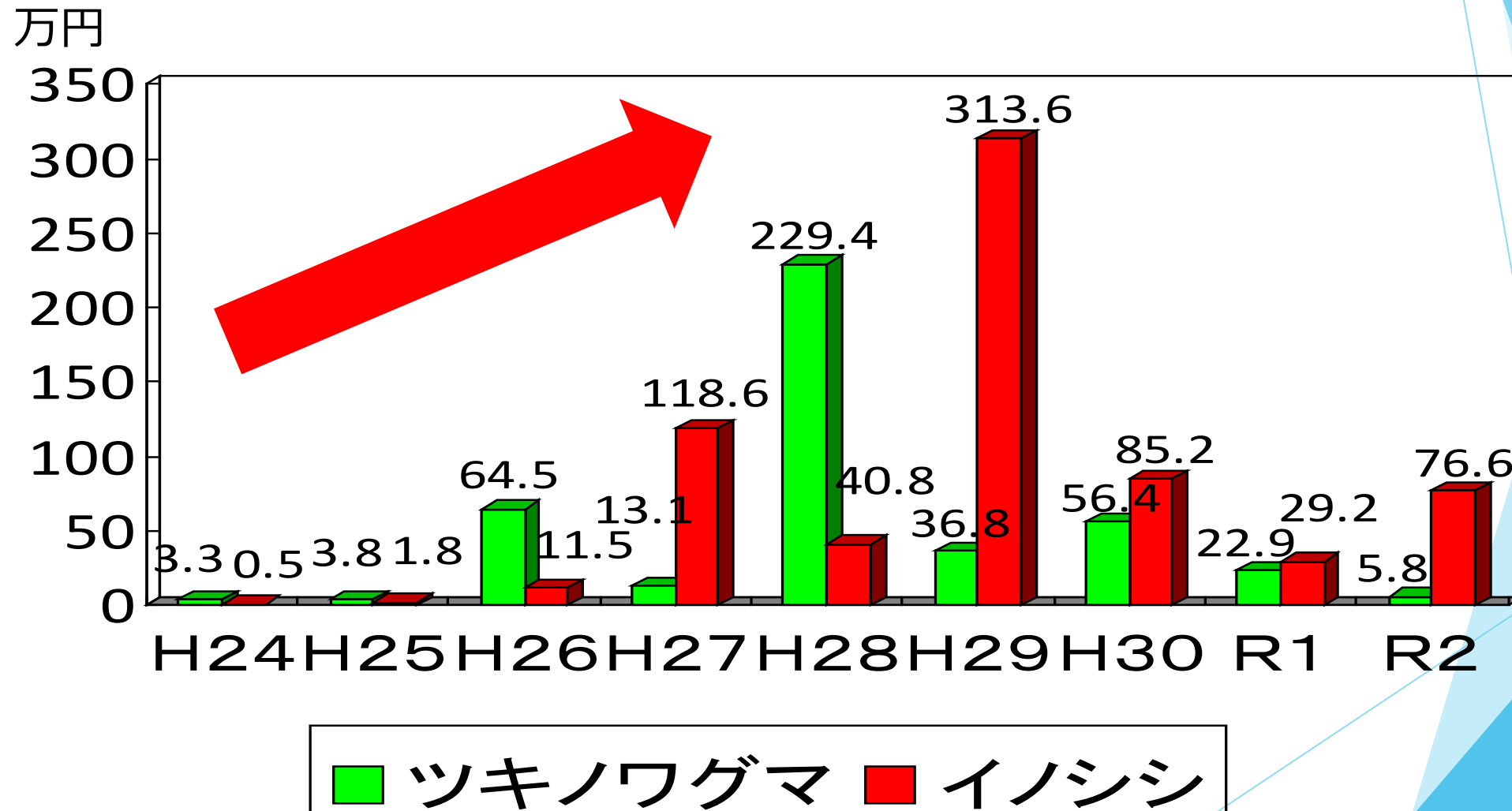


フェンス沿いの獣道



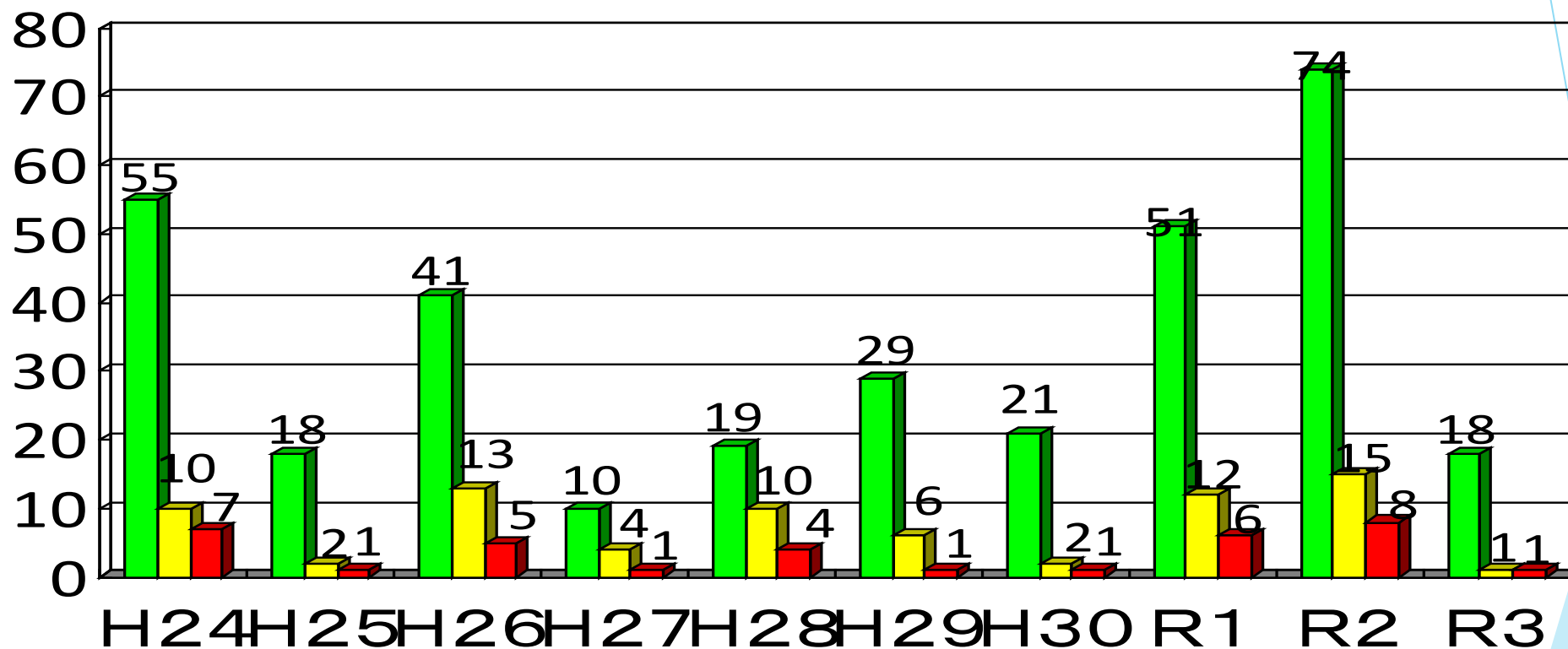
ワイヤーメッシュ柵上部の歪曲

色麻町の獣類による農作物被害額の推移



3 鳥獣被害対策の取組み

ツキノワグマ

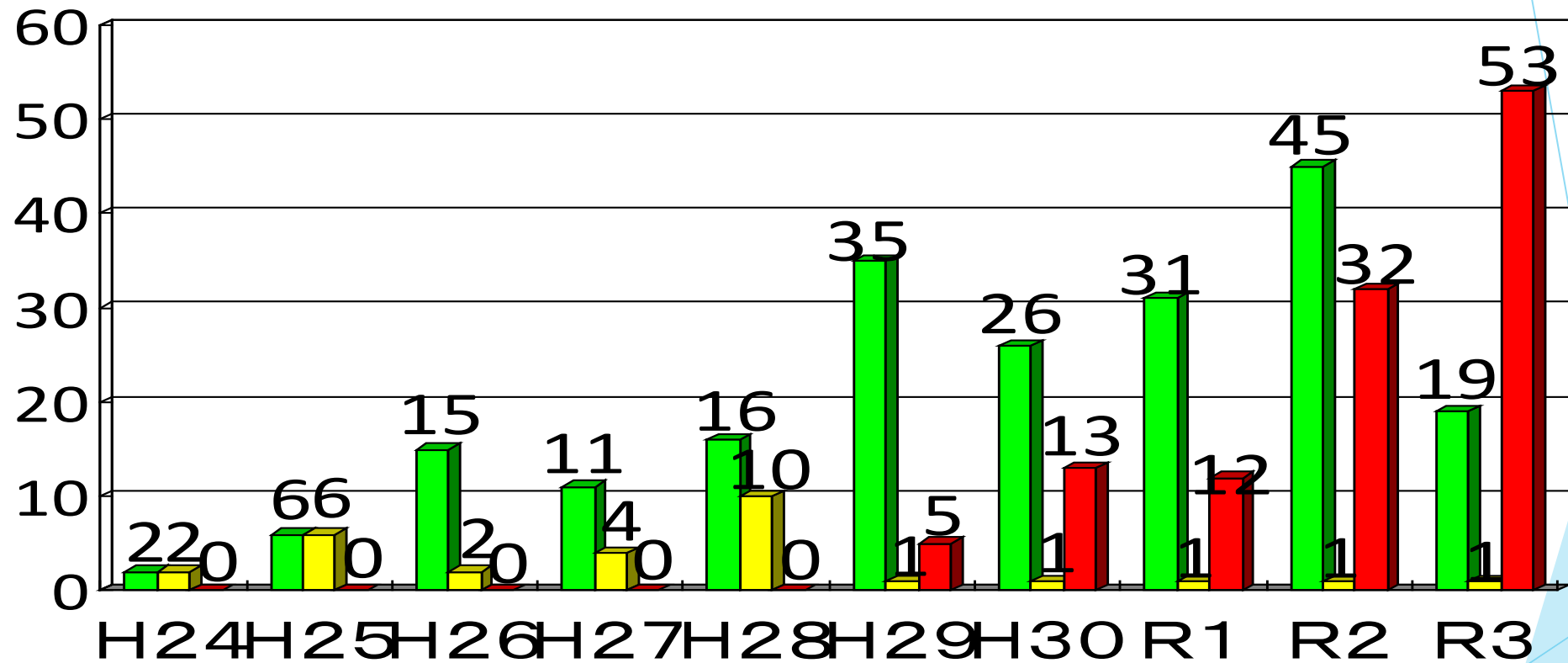


■ 報告件数 ■ 捕獲許可件数 ■ 捕獲頭数

※報告件数は、目撃件数と被害件数の合計である。

3 鳥獣被害対策の取組み

イノシシ



■ 報告件数 ■ 捕獲許可件数 ■ 捕獲頭数

※報告件数は、目撃件数と被害件数の合計である。

※平成29年度から捕獲許可期間を延長したため、件数は1件となる。

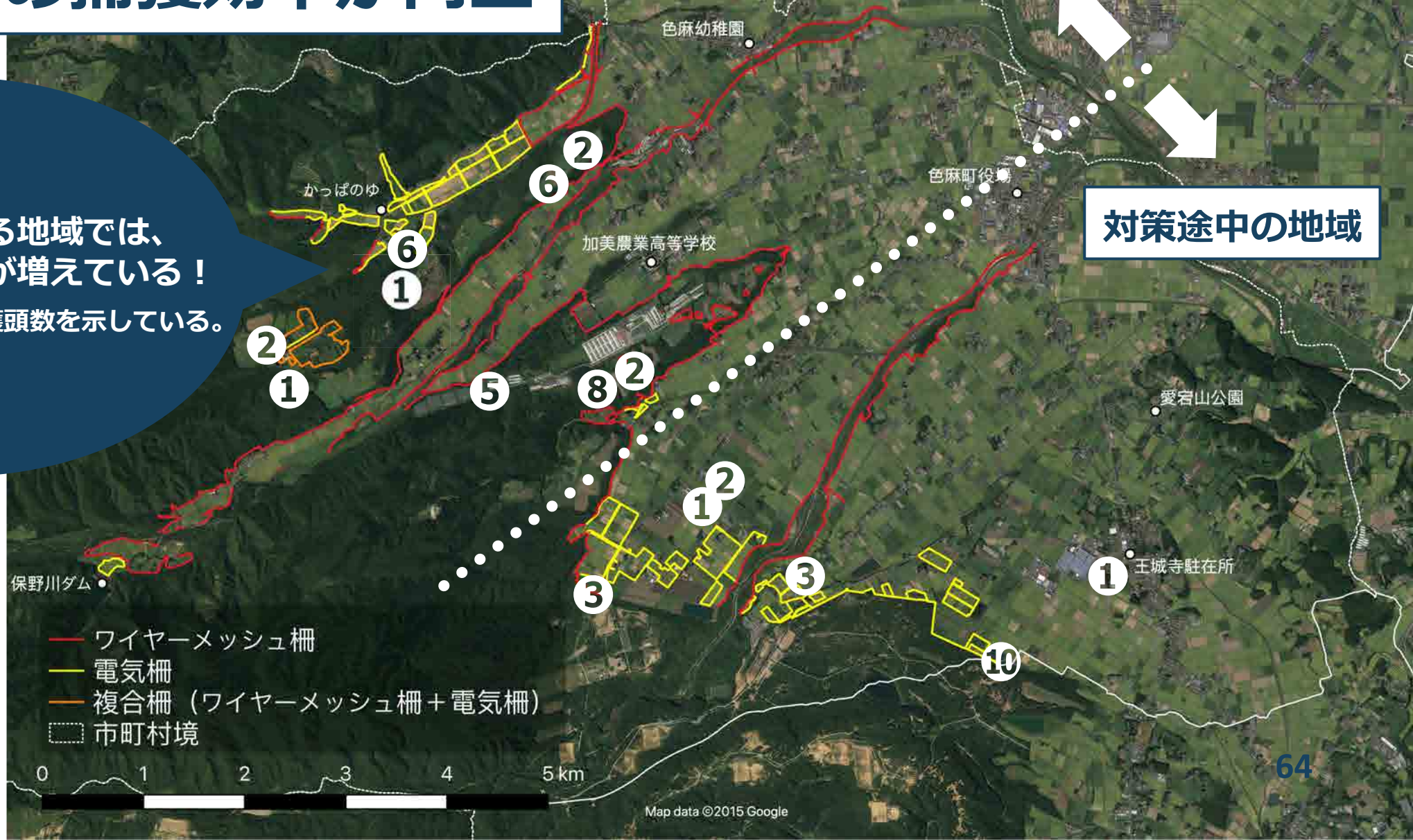
3 鳥獣被害対策の取組み

イノシシの捕獲効率が向上

対策が進んでいる地域では、
柵の外側での捕獲が増えている！
※丸数字は捕獲場所と捕獲頭数を示している。

対策が進んでいる地域

対策途中の地域



4 みえた課題や今後の取組み

- ・ みえた課題
- ・ 地域おこし協力隊の制度を活用
令和4年度から鳥獣対策支援員を配置
- ・ 鳥獣被害対策実施隊を支援
捕獲に関するマニュアルを策定
- ・ ツキノワグマ対策

みえた課題

- ・ 維持管理や体制の見直しなどのフォローをする。
- ・ P D C Aサイクルの確立を目指す。

やってみてから
わかることもあるので、
失敗とは思わず
改善することが大切！



降雪による影響



降雪による影響



常に維持管理

地域おこし協力隊（鳥獣対策支援員）の活動予定

令和4年度

- ・過去の柵設置による効果検証を行う。
- ・構想図（案）をもとに行動把握を行い、被害防止マップを作成し、地域住民と共有する。
- ・地域住民と一緒に、柵周辺の草刈りや柵の補修を行う。

令和5年度

- ・実施隊向けの捕獲マニュアルを作成する。
- ・実施隊員となり、捕獲活動を行う。
- ・柵以外の効果検証を行う。

令和6年度

- ・起業を含め、就職活動を行う。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
4月	関係者と顔合わせ SNSで周知（採用された等） アドによる指導 有害捕獲許可作成（カラス等） くくりわな製作	SNSで周知（R4活動報告等） アドによる指導 有害捕獲許可作成（カラス等） くくりわな製作 箱わな修繕 被害調査（わな設置及びみまわり）	SNSで周知（R5活動報告等） 有害捕獲許可作成（カラス等） くくりわな製作 箱わな修繕 被害調査（わな設置及びみまわり）
5月	柵設置状況確認及び柵補修 SNSで周知（柵関係） 過去の柵設置による効果検証	柵設置状況確認及び柵補修 SNSで周知（柵関係） 柵以外の効果検証 被害調査（わな設置及びみまわり）	柵設置状況確認及び柵補修 SNSで周知（柵関係） 被害調査（わな設置及びみまわり）
6月	過去の柵設置による効果検証 被害調査（みまわり含む） 柵周辺草刈り及び柵補修 被害防止マップ作成	被害調査（わな設置及びみまわり） 柵周辺草刈り及び柵補修 実施隊向けの捕獲マニュアル作成 柵以外の効果検証	被害調査（わな設置及びみまわり）
7月	過去の柵設置による効果まとめ 被害防止マップ作成 R5柵設置場所検討 被害調査（みまわり含む） 柵周辺草刈り くくりわな製作	先進地視察（県外） R6柵設置場所検討 柵周辺草刈り くくりわな製作 実施隊向けの捕獲マニュアル作成 柵以外の効果検証	先進地視察（県内） R7柵設置場所検討 柵周辺草刈り くくりわな製作 就職活動（起業含め）
8月	わな猟免許取得 SNSで周知（わな取得） 被害調査（みまわり含む） 有害捕獲許可作成（クマ等）	有害捕獲許可作成（クマ等） 実施隊向けの捕獲マニュアル作成 SNSで周知（わなの設置状況等） 柵以外の効果検証	有害捕獲許可作成（クマ等） 就職活動（起業含め）
9月	先進地視察（高知県土佐市） 柵設置指導	実施隊向けの捕獲マニュアル作成 柵設置指導 柵以外の効果検証	柵設置指導 就職活動（起業含め）
10月	学校の授業	学校の授業 第一種銃猟免許取得 柵以外の効果検証	学校の授業 就職活動（起業含め）
11月	狩猟解禁・猟友会活動 被害防止マップ配布（各地区）	狩猟解禁・猟友会活動 就職に向けての情報収集開始 柵以外の効果検証のまとめ	先進地視察（県外） 就職活動（起業含め）
12月	行動把握 捕獲個体の解体	行動把握 捕獲個体の解体	行動把握 捕獲個体の解体 就職活動（起業含め）
1月	ジビエの試食及びレシピ考案	ジビエの試食及びレシピ考案	ジビエの普及活動 就職活動（起業含め）
2月	活動記録のまとめ	活動記録のまとめ	活動記録のまとめ
3月	鳥獣交付金の事務補助	鳥獣交付金の事務補助	SNSで周知（3年間の活動報告等） 鳥獣関係の会社に就職又は起業

実施隊支援

捕獲マニュアル

- ・安全面も考慮した捕獲に関するマニュアルを作成する。
- ・構想図（案）をもとに、鳥獣の移動経路や効果的な捕獲場所を図化する。
- ・住宅地に出没した場合の対応や銃が使用できる場所を図化する。

地域住民とも共有することで、捕獲活動に対する理解を得ることができると期待している。



実施隊支援

- ・捕獲マニュアルの他、センサーカメラやICTなどを活用した捕獲技術の向上、省力化を目指す。



ツキノワグマ対策

- ・デントコーン畑がツキノワグマを誘引している。
- ・多くが平野部に出没していることから、計画的に作付けができる場所の選択を支援する。

ここでも
構想図（案）が
役に立つ！



新たな地域への対策

少し先の未来を創造し、「何をするか」ではなく、「誰とするか」で成果は大きく変わっていく。今後も地域住民とともに歩んでいきたい。

